

京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度に係る懇談会 座長 小寺正一 様
京都府教育委員会教育委員長 大橋 通夫 様

高校教育制度の「改革」にかかわる要望書を提出します

全ての子どもたちに後期中等教育を保障するための、貴委員会の取り組みに敬意を表します。

さて、京都市・乙訓地域の公立高校の入試制度については、昨年 10 月より「京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度に係る懇談会懇談会」で検討され、入試制度が大きく変更されるのではないかと危惧しています。DCI 京都セクションとして別紙の要望書を提出します。

DCI は国連子どもの権利委員会に登録された NGO です。この組織は国際的な広がりを持っていますが、日本にその支部が存在し、さらに日本各地で子どもの権利を守る運動を展開するために、地域ごとに「セクション」を結成しています。昨年の 6 月に京都セクションを結成して、京都での子どもの権利を守る運動を始めたばかりです。会員は 60 名ほどで、京都の子どもたちの権利を保障・発展させるための取り組みを展開していくことを目的としています。来る 7 月 15 日に結成 1 周年総会を開き、役員体制を発足させることになっています。

昨年の秋以降に、DCI 京都セクションでは京都の公立高校のあり方について話し合いを行ってきました。その中で、「貴懇談会」での話し合いの方向に沿って京都市内の高校入試制度が変更されれば、高校教育を受ける子どもたちの権利に大きな障害が出るのではないかと心配する声が出されました。そこで、別紙の要望書を提出しますので、入試制度の変更により高校教育を受ける子どもたちの権利が制約を受けることのないように強く申し入れるものです。

連絡先 [REDACTED] (DCI 京都セクション事務局担当) [REDACTED]

Tel: [REDACTED] E-Mail: [REDACTED]

京都府教育委員会教育委員長 大橋 通夫 様

京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度に係る懇談会 座長 小寺正一 様

「京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度」についての要望書

2012年6月30日 DCI 京都セクション 代表(予定) 本田久美子

京都府教育委員会は、昨年秋から「京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度に係る懇談会(以下、「高校制度懇談会」と略)」を設置し、京都市・乙訓地域の公立高校の入試制度についての検討を行われてきました。今までに5回の懇談を重ねられ、今回の会合では一定の「まとめ」が出され、その後に入試制度の改革案が出されると聞いています。私達は、このことに対して大きな関心を持っているものです。京都市内・乙訓地域の子供達に等しく高校教育制度が保障される内容の「改革案」を出されることを願って、この要望書を提出します。

京都府の高校教育制度は、新制高校発足以来 1984 年度までは「高校三原則(男女共学、総合制、地域制)」にもとづいて運営されていました。中でも、「地域制(or 小学区制)」は地域の子供達は地域の高校へという理念により、学校間に格差を作らず、どの高校に入学しても同等の教育条件・内容を保障するという制度でした。ところが、受験生が入学する高校を選べないことを大きな理由として、1985 年度の改革により地域制が一部崩され、一定割合の生徒に学校選択の自由が認められるということとされ、その後何度かの制度の手直しにより、学校選択の自由の枠が拡大されていきました。

一方、京都府以外の都道府県の高校入試制度は早い時期から地域制が廃止され、高度経済成長の時期から高校入試の学区が拡大されたことにより学校ごとに大きな格差がつき、中学校での学力による「輪切り」の進路指導が大きな弊害をもたらしていることが久しく指摘されてきていました。

現行の京都の高校入試制度は通学圏・類型ごとに行われますが、京都市内・乙訓地域では一般入試での合否判定は総合選抜で行われ、I 類では合格した生徒の入学校の決定(各校の募集定員の 65%)をいわゆる「バス停方式」により決めるという制度になっています。これは単独選抜にすると高校間に大きな格差をもたらしてしまうという(1980 年代前半ころに)他府県で指摘されていた弊害を回避するために編み出された方法です。今まで何回かの入試制度の変更があり、学校選択の自由の枠が拡大されてきましたが、総合選抜は維持されてきました。

以上のことを踏まえると、京都市・乙訓地域の現行の高校入試制度は、多くの子供達に高校教育を保障するという点で、以下のような特徴を持っていると考えられます。

① 高校間に大きく固定的な格差は存在していないこと

受験生に一定の学校選択の自由を認めているものの、総合選抜により合格者を決め、(普通科全体の)約半数の合格者の入学校の決定に際しては、入学する生徒の学力が均等になるようにしているので、学校間の格差が大きくなること、あるいは格差が固定化することを防いでいます。

② 希望によらない遠距離の高校への通学は起こっていないこと

入試に合格し希望校に入学が決定した場合を除き、I類での合格者は「バス停方式」により最寄りの高校へ入学が決定することになるので、希望によらずに遠距離の高校に入学が決定するということ、つまり不本意な遠距離通学という事態は起こっていません。

③ 高校入試のセーフティネットが機能していること

他府県のような単独選抜による入試では、希望校を決めその学校に出願し不合格になれば、その高校への入学ができなくなることだけでなく、高校への入学そのものができなくなります。京都市・乙訓地域では総合選抜を行っており、京都市・乙訓(通学圏)全体で合格者を決めるので、希望校のいかんにかかわらず一定の学力があれば入試に合格しますので、希望校の選択による入試の失敗ということは起こっていません。

京都市・乙訓地域の現行の高校入試制度は大変複雑なものですが、それは学校間の格差が大きくならないようにしながらも、一定の学校選択の自由を保障するという異なる二つの性格を可能な限り保障しようとしているからです。しかるに、「高校制度懇談会」の5回にわたる懇談の内容をお聞きしますと、複雑でわかりにくい入試制度であるということを主な理由に、総合選抜制を廃止し単独選抜へ変更する方向での議論が多数を占め、総合選抜制度が廃止されるのではないという危惧を抱いています。今まで総合選抜制を維持してきた意義、単独選抜にした時の弊害があまり話し合われていないことに大きな不満を持っています。私たちは、現行の入試制度が府民にとってわかりにくい制度であり、特に「バス停方式」はどこに入学が決まるのかが最後までわからないという点がありますが、高校間に大きな固定的な学力格差をつけない・地域の高校への入学が保障されているという点で、現在の社会情勢の中で改善の制度であると考えています。今後も京都の高校入試が総合選抜的な内容を保つようにすることを希望して以下のことを要望しますので、実現されるように強く申し入れます。

- ① 高校入試制度の改編にあたっては、全ての子どもに後期中等教育が保障されるような内容・方法にされたい。
- ② 現在でも全日制普通科の公立高校間に入学してくる生徒の学力や家庭状況に格差がついていますが、今後採用する制度によってはさらに大きな格差がつくことが予想されます。入試制度を改編する際には、現在以上の格差がつかないように、できれば現在の格差が縮小されるような制度にされたい。
- ③ 遠距離の高校に入学することになると通学負担が大きくなり、様々な意味で高校への就学が困難になることが予想されます。また、単独選抜になると、受験する高校の選択により不合格になれば、十分に高校教育をうける学力を付けていたとしても、公立高校への進学が不可能になります。このような2つの制度的な矛盾を解決するために京都では新制高校が発足して以来総合選抜制度を続けてきました。今後、入試制度を改編する際にも、総合選抜を維持することを強く要望します。

以上、DCI京都セッションとして要望書を提出しますので、よろしくご検討をお願いします。

2012年 7月9日

京都市・乙訓地域公立高等学校教育制度に係る懇談会
座長 小寺 正一 様

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革 についての要請書

81 筆

〔問い合わせ先〕

京都教職員組合

〔住所〕 京都市左京区聖護院川原町4-13

〔電話〕 075-752-0011

《私の意見》欄 記入分 46部

未記入分 35部（配付省略）

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提唱していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん暴暴でいいいさを欠くとおぼろげをええせん。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

地区に近く高校に通う通学圏に変更を
学校間の格差をなくし教育格差の是正を

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提唱していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん暴暴でいいいさを欠くとおぼろげをええせん。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

人間として、どうすればいいかに、格差や序列は必要で
ないから、府民的な議論を丁寧に行なうこと！

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提唱していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん暴暴でいいいさを欠くとおぼろげをええせん。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

人生で通学圏の高校生活が、
通学圏の12年間は、

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提唱していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん暴暴でいいいさを欠くとおぼろげをええせん。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

高校の入試制度をより改善する！！

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選択」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提議していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはいふん乱暴でいいいさや欠くと言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

地域住民、子どものふたつの思いが
なせかにとれるよう、がんばりましょう。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選択」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提議していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはいふん乱暴でいいいさや欠くと言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

高校が自由に選べるように、なれる、結局
差別と選別がすすめる、違い、行きたくなるとは
行かなくてしょう、まだとんがえたいです。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選択」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提議していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはいふん乱暴でいいいさや欠くと言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

通学圏の拡大は疑問に思う。
小中学校では地域がかなりかまっていた。高校にもあてはまると思う。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選択」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提議していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはいふん乱暴でいいいさや欠くと言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

豊かな高校教育の保障を

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひいふ乱暴でいいいささ欠くと言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改革をすすめること。
5. 進路に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

子どもは地域を自分の故郷、地域の高校に通い
学習してほしい。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひいふ乱暴でいいいささ欠くと言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改革をすすめること。
5. 進路に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

市民の声を聞き下り、
格差のない社会にしたい。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひいふ乱暴でいいいささ欠くと言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改革をすすめること。
5. 進路に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

地域の子供がすべて安心して進学できる
よう改善してほしい。京大や京大付属、豊か町立高校の
併設を希望する。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひいふ乱暴でいいいささ欠くと言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改革をすすめること。
5. 進路に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

進路・通学を促し、高度成長時代や地域社会の発展促進、各家庭の
希望・要望に地域社会が応える。地域社会の発展促進、各家庭の
希望・要望に地域社会が応える。地域社会の発展促進、各家庭の
希望・要望に地域社会が応える。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「新・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはいかに乱暴でいいいさ言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改革をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

所得の低い世帯がふえていて、これに子どもたちが格差や序列化を拡大させば、通学圏をこれ以上拡大させないでほしい。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「新・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはいかに乱暴でいいいさ言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改革をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

遠いところと近いところ、どちらがいいか、あつと考えるとよく分ると思います。高校教育を少しでも保障していただく行政の役割だと思っています。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「新・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはいかに乱暴でいいいさ言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改革をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

進路指導が適切に行われることが、子どもたちの将来にとって大切だと思います。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「新・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはいかに乱暴でいいいさ言わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改革をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

高校は将来の夢を実現するための場所。大学進学だけでなく、職業教育や社会教育など、多様な教育を提供してほしい。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいろいろな議論を積み重ねることを望み、以下のことを要望します。

12

1. 高校間の格差や序列を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学び方という意思のある子どもを受け入れていり方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

一人一人の子ども進路を保障するために、通学圏の拡大を
やめてほしい。

【住所】

【店名】

「性一」

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいろいろな議論を積み重ねることを願い、以下のことを希望します。

E

1. 高校間の格差や序列を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ばないという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を付けなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

『私の世界』

《私の意見》

(44 册)

【姓名】

— (佳評)

姓名

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都市の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひふん乱暴でいいえと強く言わざるを得ません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

高校3年間を有意義な学習と生活を送る機会と捉え、個性を伸ばし、社会に貢献できる人材を育てる。そのためには、高校間の格差を縮小し、すべての子どもが質の高い教育を受けられるように努める必要がある。特に、通学圏の拡大による格差の拡大を懸念し、地域に根ざした教育の重要性を再認識する必要がある。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都市の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひふん乱暴でいいえと強く言わざるを得ません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

高校は、保護者側の望みと、地域のニーズを踏まえ、個性を伸ばし、社会に貢献できる人材を育てる。そのためには、高校間の格差を縮小し、すべての子どもが質の高い教育を受けられるように努める必要がある。特に、通学圏の拡大による格差の拡大を懸念し、地域に根ざした教育の重要性を再認識する必要がある。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都市の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひふん乱暴でいいえと強く言わざるを得ません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

近頃の学校に行きたくないと感じる生徒が増えている。その原因は、高校間の格差の拡大にある。すべての子どもが質の高い教育を受けられるように努める必要がある。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都市の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひふん乱暴でいいえと強く言わざるを得ません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

どの高校に入っても保護者が安心して育める豊かな高校生活を送れるようにしてほしい。そのためには、高校間の格差を縮小し、すべての子どもが質の高い教育を受けられるように努める必要がある。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す事態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改訂にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひぶん乱暴でいいえと云わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 結論に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

・高校は地元で学習できるように下す。
・高校間の格差をなくして下す。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す事態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改訂にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひぶん乱暴でいいえと云わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 結論に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

通学に時間がかかるといふ制度は改革をせよと云う。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す事態をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改訂にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはぜひぶん乱暴でいいえと云わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 結論に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

公立高校に希望する子ども達が入学できるように
受験制度を改定してほしいです。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱く実態をつくってきました。

貴懇談会では今年までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされず、新たに「1通学圏」提案がされるのはいふん乱暴でいいえと苦言を述べざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

京都市・乙訓地域公立高校教育制度は、
子どもが希望する学校に行けるようにする。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱く実態をつくってきました。

貴懇談会では今年までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされず、新たに「1通学圏」提案がされるのはいふん乱暴でいいえと苦言を述べざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

京都市・乙訓地域公立高校教育制度は、
子どもが希望する学校に行けるようにする。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱く実態をつくってきました。

貴懇談会では今年までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされず、新たに「1通学圏」提案がされるのはいふん乱暴でいいえと苦言を述べざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

京都市・乙訓地域公立高校教育制度は、
子どもが希望する学校に行けるようにする。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生みだすとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱く実態をつくってきました。

貴懇談会では今年までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが明示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされず、新たに「1通学圏」提案がされるのはいふん乱暴でいいえと苦言を述べざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

京都市・乙訓地域公立高校教育制度は、
子どもが希望する学校に行けるようにする。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱く実態をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提唱していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん乱暴でいいいさ言えなくと苦言を述べさせていただきます。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

子供達が高校生活を豊かにできるように、高校校の格差序列をなくしてほしい。通学圏は縮小してほしい。
おとめ

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱く実態をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提唱していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん乱暴でいいいさ言えなくと苦言を述べさせていただきます。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

我が子2人は、地元高校で学び、左近と一線に交流しながら学んでほしい。ぜひ、地元の高校に希望すれば進学できる制度にしてほしいです。
おとめ

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱く実態をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提唱していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん乱暴でいいいさ言えなくと苦言を述べさせていただきます。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

地域高校に子供が行ける地元の公立高校を希望します。
おとめ

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「部・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱く実態をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提唱していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされることなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん乱暴でいいいさ言えなくと苦言を述べさせていただきます。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大させず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大させず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

公立高校の充実と、私立校の学費負担を軽減していく方向で議論を積み重ねたいと要望します。
おとめ

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについていけない議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進捗となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいけない議論がおこなわれたと言いたいものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされず、新たに「1通学圏」提案がされるのはずいぶん乱暴でいいえきと云わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいろいろな議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 拙速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

地域の子供への進路指導に入学まで関与して、
毎時それを上回る通学圏の拡大に懸念します。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについていけない議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進捗となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいけない議論がおこなわれたと言いたいものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされず、新たに「1通学圏」提案がされるのはずいぶん乱暴でいいえきと云わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいろいろな議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 拙速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

一般の生徒の学力向上と保護者の不安の軽減のため、
府民全体のための公教育の施策にしたい。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについていけない議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進捗となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいけない議論がおこなわれたと言いたいものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされず、新たに「1通学圏」提案がされるのはずいぶん乱暴でいいえきと云わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいろいろな議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 拙速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

地域性、小中学校を大切にした入試制度にしたい。地元の
学校で学ぶという意識のある子どもを受け入れていく方向で、
制度改善をすすめること。
拙速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも崩す実態をつくってきました。

貴懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについていけない議論がおこなわれることもなく、ある一定の結論に収束するような進捗となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についてもいけない議論がおこなわれたと言いたいものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが提示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改組にあたってはその検証もされず、新たに「1通学圏」提案がされるのはずいぶん乱暴でいいえきと云わざるをえません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいろいろな議論を積み重ねることを願い、以下のことを要請します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぶという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 拙速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

子どもにむかえる授業、学力保障をして下さい。
特色ある学校では、どの学校に行っても同じ公立
高校でありたい。(学校に予算格差を付けたい)

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の通学選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん乱暴でいいいさを欠くと言わざるを得ません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぼうという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

子どもたちが希望する学校、希望する高校教育を受けたいという思いを、地域に根ざした教育で実現するためには、「通学圏」は、改めて下

【住所】

【氏名】

「京都市・乙訓地域公立高校教育制度」改革についての要請書

京都府の高校教育は「類・類型」制度の導入以後、「高校の特色化」の名のもと、大学進学に特化した「専門学科」や「中高一貫校」の創設、「通学圏」の拡大や「特色選抜」の導入等によって、高校間の格差・序列化を拡大してきました。その結果、高校間に「人気校」「不人気校」を生み出すとともに、高校と「地域」や中学校との連携をも弱くする結果をつくってきました。

懇談会では今までに5回の議論がおこなわれ、各回ごとにテーマを設定した意見交換がおこなわれてきました。けれども、それぞれのテーマについて、委員から異なる意見が出ていたにもかかわらず、それについてのいい議論がおこなわれることなく、ある一定の結論に収束するような進行となっていたことに危機を覚えます。例えば、第5回懇談会での「通学圏の拡大」についていい議論がおこなわれたとは言えないものでした。

また、第5回懇談会で事務局から配付された『まとめの方向性』も、今まで議論されていないことが示されています。

今回までの懇談会議論で方向づけられた、例えば「通学圏の拡大」などによって、今後の当通学圏での高校教育が「高校間の格差・序列化をさらに拡大するものになる」「子どもが希望しても『地域』の高校に入学することを困難にするものとなる」ことを危惧します。それは懇談会の中で、委員からも指摘された危機です。

かつて、府・市教委が当通学圏を4つから2つにした際、その見解(平成19年7月)で「地域に根ざした教育を尊重する」「生徒の通学選択や中学校の進路指導が適切におこなわれることを考慮する」と提起していたにもかかわらず、今回の改編にあたってはその検証もされことなく、新たに「1通学圏」提案がされるのはすばいふん乱暴でいいいさを欠くと言わざるを得ません。

今回の議論が「結論ありき」の内容になることのないよう、幅広くいい議論を積み重ねることを願い、以下のことを要望します。

記

1. 高校間の格差や序列化を拡大せず、どの高校に行っても、整備された教育環境のもとでの豊かな高校教育を保障すること。
2. 地域の公立高校としての役割を重視し、地域の公立高校に行きたい子どもが行けることを保障する制度であること。
3. 通学圏をこれ以上拡大せず、むしろ縮小を図ること。
4. 高校で学ぼうという意思のある子どもを受け入れていく方向で、制度改善をすすめること。
5. 迅速に結論を出すことなく、府民的な議論を丁寧に展開すること。

【私の意見】

子どもたちが希望する学校、希望する高校教育を受けたいという思いを、地域に根ざした教育で実現するためには、「通学圏」は、改めて下

【住所】

【氏名】